

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3271800389		
法人名	社会福祉法人 桜江福祉会		
事業所名	陽光苑グループホーム		
所在地	島根県江津市桜江町長谷2723番地2 (電話) 0855-92-8450		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年2月6日	評価確定日	平成21年3月3日

【情報提供票より】(21年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人
職員数	7 人	常勤5人, 非常勤2人,	常勤換算6.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,300 円	

(4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	5名	男性	0名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.6歳	最低	77歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	島根県済生会江津総合病院 高砂病院 桜江歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間地にある定員5名のホームで、地域密着型としての理念の実践に努め地域行事に参加したり演芸やカラオケボランティアなどの協力を得ながら利用者の楽しみのある生活を支援している。職員は常にサービスの質の向上を目指し、利用者の気持ちを大事にし思いに寄り添うことを心がけている。誕生会に参加した家族が自分の親に手紙で思いを伝えるなど、職員の地道な努力が心温まる場面を作り出している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議で出席者から意見や助言をもらいながら全員で改善に取り組んでいる。便りの発行回数を増やしたり外出支援、食事支援、プランの見直しなど、積極的に改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	朝の申し送りの時間に職員全員で項目ごとに検討し時間をかけて評価を行った。課題についても全員で共有し改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催し、利用者の様子や外部評価報告、テーマに沿った意見交換などを行い出席者から助言をもらっている。出席者の意見から積極的に公民館活動に参加するようになるなど、出された意見は運営に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時や家族会総会で意見を聞いている。これまで意見はあまりなかったが、行事への参加やケアプランの希望を聞く中で意見が聞かれるようになった。さらに家族会総会の開催回数を増やすことが考えられている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	立地条件から困難さもあるが、積極的に地域行事に参加したり公民館活動への参加を増やすなど地域との交流に努めている。小中学生の福祉体験の受け入れなど、ホームとしてできることを通し連携を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をわかりやすい言葉でつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念の読み合わせを行ったりホーム内に明示し共有化に努めている。利用者が地域の人たちと触れ合いながら生活できるように、理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	文化祭、運動会、祭りなどの地域行事に積極的に参加し公民館活動への参加が増えている。小中学生の福祉体験の受け入れやボランティアとの交流も多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で項目ごとに検討し時間をかけて評価を行った。課題についても全員で共有し改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子や外部評価結果の報告、テーマを決めての意見交換などを行っている。公民館活動への参加など、出席者からの助言や提案を運営やケアに活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便りで利用者の日常の暮らしぶりを伝え、担当者も便りを支所内に掲示するなど連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	二ヶ月に一回便りを発行し行事での様子などを写真を添えて伝えている。一人ひとりの様子は健康状態のお知らせと共に書き添えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や家族会で意見を聞くことに努め、少しずつ意見が出るようになった。家族同士の交流の機会を増やすために年一回の家族会総会を二回にしたいと考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に異動はしないようにしている。担当は決めず職員全員で利用者に関わり、異動や離職があった時にも互いに補いあい不安を与えないようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ外部研修に参加し内容は全員で共有している。法人内の研修にも参加している。	○	内部研修の充実を図り研修の機会が増えることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は研修で知り合った同業者と交流し情報交換をしている。地域内での同業者との会合などはまだ行われていない。	○	職員レベルでの交流もできるような工夫を望みたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学をしてもらったり、利用者の状態に合わせて積極的に話しかけたり寄り添いながら、徐々に馴染んでもらうよう努めている。利用者同士の関係も大事にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として接し、昔からの生活の知恵や延べ団子作りや切り干し大根作りなどを教わっている。利用者が生き生きとできる場面を作り一緒に楽しみあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や訴えから思いを知ったり、好きな話や身近な話をする中で思いを聞き出している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で利用者の意見を聞いたり、家族の来訪時や遠方の人には郵送で希望を聞き、意見を反映させながら職員全員で話し合い計画を立案している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン実施表を作成し、毎日目標に沿ってケアを実施したか振り返り記録している。状態変化時は柔軟にプランを変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的に受診は家族が行っているが状況によっては柔軟に対応している。法人の看護師と連携を取り相談しながら健康管理をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医により週二回、往診が行われている。家族や職員の話をよく聞き適切な指示や助言をしてくれる医師がいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に同じ法人の他施設を同時に申し込んでもらいホームとしてできる最大限のことを家族に話している。	○	状況によってはホームも選択肢の一つになるような検討を重ねていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者を尊重した言葉づかいや対応を心がけ、気になる時はその都度個別に指導している。今年度の家族会総会で、便りに利用者の写真を載せることについて話し合い同意を得た。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	庭を散歩する、雑誌を読む、炬燵にあたってテレビを見るなど、利用者の希望やペースを尊重した対応を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできることを活かし食事作りや片付けなど一緒に行っている。法人施設と同じメニューだが、時には買い物に行き好みの物を買って食事作りをしている。職員も同じテーブルで食事をするように改善されている。	○	利用者の希望を聞きながら独自のメニューを増やしたり、職員も一緒に同じ物を食べる機会を作るなど、さらに食事が楽しみなものになるような検討を望みたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を大切に毎日でも入浴ができるように支援している。夜間入浴は体制上難しい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸、野菜作り、調理などの得意なことを活かしたり、ビーチボール遊び、歌、しりとり、トランプ、ボランティアとの交流などを楽しんでいる。日記を書いたり花の水替えをする人もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ散歩や買い物、ドライブに出かけるようにし計画的な外出支援をしている。時には食材の買い出しに出かけている。	○	一人ひとりのその日の希望によって散歩などの機会が増えることを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず自由に出入りすることができる。職員は声をかけあいながら利用者の動向を見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら定期的に訓練を行っている。自己対応マニュアルを作成し職員に徹底させている。立地条件から地域との協力関係は難しいと考えている。	○	特に夜間対応については繰り返し研修を積んでいただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を把握し水分も十分摂取できるよう配慮している。油を控えたり好みの味付けにするなど工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室にあったこたつをフローアに下ろすことで使い勝手のいい空間になっている。童話や雑誌、花、季節ごとの飾り物などを置き、落ち着いた空間作りを心がけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や好きな花、アルバム、自作の絵や手作り品などを置きそれぞれの思いに合わせた居室になっている		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。